

雑草の耕種的防除の改善による オーガニック米の収量向上

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

有限会社N農場は、オーガニック米の栽培に取り組まれており、平成14年には有機JAS認証を取得し、主食用水稻の売り上げ向上を図られてきました。しかしながら近年は、雑草や藻の発生が多く、代かきや機械除草で試行錯誤されているものの、平均収量は令和2年産310kg/10a、令和3年産218kg/10aと販売に必要な量が確保できていませんでした。そこで、オーガニック米の収量向上を目的に、効果的な雑草の耕種的防除に対応した育苗管理方法と適切な本ほ機械除草の実践支援を行いました。

【普及活動の内容】

(1) 育苗管理と効率的な代かきの実施支援

機械除草には、中苗での移植が必要です。そこで、移植時期に応じた育苗管理スケジュールを提案し、対象者と苗の生育を確認し、追肥の実践等適切な育苗管理を支援しました。また、雑草種子を減らすために、複数回代かきの実施時期や回数の見直しを行いました。

(2) 機械除草支援

雑草、藻の発生程度と稲株の状況に応じて機械除草作業に入るタイミングや除草エリアを対象者とともに確認し、作業に入る前には確認項目について意識されるよう働きかけを行いました。また、作業当日には、対象者と除草による株への影響や水深を確認し、欠株の発生が最小限となるよう支援しました。

【普及活動の成果】

育苗管理支援により移植まで適切な育苗管理をされ、技術習得されました。また、代かきの実施時期と回数の見直しにより生育初期の雑草を抑制することができました。さらに、機械除草の実施を適切に判断され、機械除草による欠株を最小限に抑えたことで雑草繁茂を抑制することができ、後半の良好な生育に繋げることができました。その結果、収量は409kg/10aと大幅に向上しました。



写真1 移植1か月後のほ場

◎対象者の意見

目標としていた収量を確保することができ満足しています。収量安定に向け、今後も支援をお願いしたいです。(生産者N氏)